

# MUSUBU AI、みやわかの郷、グロッサリア(福岡県宮若市)

作成時点：令和7年5月

吉川小学校跡地の公共施設等運営事業

学校

▶ 産業振興施設

## 基本情報



写真出所：宮若市

## 位置図

福岡県宮若市脇田393-2ほか

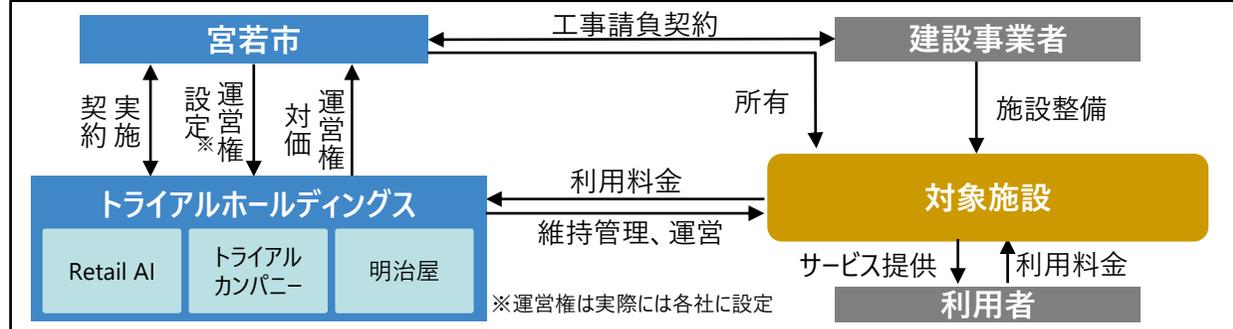


出所：地理院地図を引用

掲載内容に関する問合せ先  
 宮若市 産業観光課 商工振興係  
 TEL：0949-32-0519  
 Email：syoukou@city.miyawaka.lg.jp

事業主体	福岡県宮若市（人口：25,910人 ※令和7年3月時点）
事業手法	コンセッション方式
民間事業者の業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営業務（AI等先端技術研究開発、コワーキングスペース、シェアオフィス、農業観光振興センター、産地産直レストラン、特産品開発推進等）</li> <li>• 維持管理業務（保守管理、清掃、警備、修繕、施設改修等）</li> </ul>
事業期間	30年間（令和3年4月～令和33年3月）
事業費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設整備事業費 1,134百万円</li> <li>• 運営権対価 非公表</li> <li>【うち行政負担：563百万円】</li> </ul>
活用した補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地方創生関係交付金（拠点整備、推進） 458百万円</li> <li>• 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 105百万円</li> </ul>
事業者	MUSUBU AI：株式会社Retail AI（市外企業） みやわかの郷：株式会社トライアルカンパニー（市外企業） グロッサリア：株式会社明治屋（市外企業） ※全て市と連携協定締結の株式会社トライアルホールディングス（市外企業）傘下の企業
事業経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和2年9月 株式会社トライアルホールディングスとの連携協定締結</li> <li>• 令和3年1月 実施方針公表（AI研究開発施設）</li> <li>• 令和3年4月 運営権設定（AI研究開発施設）</li> <li>• 令和3年6月 開業（AI研究開発施設）</li> <li>• 令和3年11月 実施方針公表（農業観光振興センター及び産地産直レストラン）</li> <li>• 令和4年4月 運営権設定・開業（農業観光振興センター及び産地産直レストラン）</li> </ul>

## 事業スキーム図



### 検討経緯

- 廃校となっていた吉川小学校の利活用について、株式会社トライアルホールディングスから市に申し出があったことをきっかけに検討が始まった。
- 宮若市と事業者は協議の上、事業化に向けて連携協定を締結。当該協定に基づき、廃校を活用したAI開発センター、体育館を活用した産地産直レストラン、農業観光振興センターをコンセッションにより運営することとなった。
- 宮若市と株式会社トライアルホールディングスは、令和5年2月に「リモートワークタウンスブ宮若まちづくりプロジェクト」連携協定を改めて締結し、さらなる官民連携のまちづくりに向けて取り組んでいる。

### 取組のポイント

- 事業者側から、廃校利活用に関する事業内容やスキームについての提案を受け付ける民間提案制度を利用したことで、円滑に事業を進められた。
- 連携協定を締結している事業者であったため、官民の関係構築ができており、事業者の希望するAI研究開発施設と、事業者の有する小売流通業でのノウハウを活かした農業観光振興センター・産地産直レストランの双方の運営をまとめて事業者にも担ってもらうことができた。

### 得られた効果

- 事業者は旧吉川小学校を活用したMUSUBU AI（AI研究開発施設）に続き、旧笠松小学校を活用したMEDIA BASE（デジタルサイネージやSNSなどで使用するコンテンツの作成など情報発信の拠点）や旧宮田西中学校を活用したTRIAL IoT Lab（AIデバイス開発拠点）など、宮若市内の別の廃校についてもAI関連の施設として開発を広げ、まちづくりブランディングに結び付けた。
- 本事業に加え、市内において娯楽施設やリゾート事業も展開しているため、従業員の移住などを通じて人口増加にも寄与しており、地域活性化にもつながっている。

### ■ 利活用前



### ■ 利活用後



写真出所：宮若市等